

～「ここすき」学びの記録～ 「友情」のはじまり

*車を坂道に走らせる「トレインコースロープ」のところで、BさんとCさんが向き合っています。どうやら、二人とも同じものが使いたいようです。二人の「やりたい」思いが重なって、どちらも思い切り遊び込むことができません。二人はこの難しい問題をどのように解決するでしょうか？



二人の力を信頼して、少しの間、見守っていた保育者でしたが、このまま二人の「やりたいこと」が重なったままでは、どちらも「楽しさ」や「達成感」が十分に得られないとみた保育者は、二人で順番に車を走らせることを提案しました。「二人で『じゅんばん』に車を走らせてみたら、おもしろいかもしれないよ。やってみようか？」と。

「最初は、Cちゃん。次は、Bちゃん・・・」というように、二人にも順番がわかるように、「Bちゃん」→「Cちゃん」→「Bちゃん」→「Cちゃん」→・・・と言ってあげると、二人はその声に合わせるようにして、実に楽しそうに、交代で車を走らせはじめたのです。

そのうち、Bさんは保育者に声を合わせるように、自分が走らせ終わると、「Cちゃん」・・・と言うようになったのです！すると、Cさんもうれしくなり、この笑顔！

そのうちBさんがお母さんのところに行くために、ちょっとその場を離れた時がありました。すると、Bさんがいないことに気づいたCさんはどうしたと思いますか？「Bちゃん」と大きな声でBさんを呼んだのです。

その声に気づいたBさんが戻ってきてくれた後、二人は頭にリングをのせて、緑の椅子に並んで座りました。二人とも実に幸せな表情ですね。

自分の「やりたい」思いを我慢して「いっしょに遊ぶ」ことよりも、それぞれの「やりたい」思いを応援して、「一人遊び」を十分に経験させてあげることによって「主体性」や「粘り強さ」が育つ1～2歳児ですが、この事例のように、「いっしょに遊ぶことの楽しさ」を経験した時、「楽しく遊べた相手の子」に対しては「大人への信頼感」とはちょっと違う感情が芽生えてきます。これが「友情」のはじまりなのでしょうね。